

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu 蒼穹

2023.3 Vol.150



卒業おめでとう！卒業生・修了生の新たな旅立ち（詳しくはP.14をご覧ください）

特集 「地域における知の拠点」として 「第1回松本大学健康首都会議」を開催 ～延べ1200名が広範な分野における健康講座を受講～

.....	P.02
●松本大学のリカレント教育 5月12日より講座開講！ 本学の持つリソースを広く地域社会に還元	P.04
●卒業研究・卒業論文発表会	P.06
●「1/3日分の野菜・たんぱく質サラダ」の商品共同開発	P.09
●学生組織「支援会ゆにまる」のマーケティング活動	P.12
●資格速報 健康運動指導士認定試験・社会福祉士国家試験	P.13 ほか

“地域における知の拠点”として 「第1回松本大学健康首都会議」を開催 ～延べ1200名が広範な分野における健康講座を受講～

前号の特集でご紹介した第1回となる「松本大学健康首都会議」（本学主催、市民タイムス・長野朝日放送共催）が、3月4日から5日にかけて、本学を会場に開催されました。延べ1,200名が来場され、地域住民の方々の健康への関心や向学心の高さを改めて実感する2日間でした。

地域力創造委員長
健康科学研究科・スポーツ健康学科 准教授 齊藤 茂



200名余が聴講した菅谷昭学長の記念講演

バラエティーに富んだ 7コース全27講座で構成

今回はテーマを「健康づくりは幸せづくり～人生100年時代を迎えて～」とし、菅谷昭学長による記念講演「健康寿命延伸の最終目標：「生きがい創出」への誘い」、及び学内・外の講師によるバラエティーに富んだ7コース・全27講座が開催されました。7コースは参加いただく方々に体系的な学びを提供したいと考え、それぞれに「運動」による健康づくり、「心」の健康づくり、「食」に関わる健康づくり、「子ども」の健康づくり、「社会生活」と健康づくり、「医療分野」による健康づくり、そして「地域」の安全を守る、という小テーマを設定し、コースごとにおおよそ3つずつの講義によって編成しました。

体験講座も充実

また、松本山雅FC・本学男子サッカー部による「キッズサッカー教室」や本学健康支援ステーションによる「健康測定をしてみよう」等、様々な世代の方が参加できる体験型の講座も準備しました。加えて、株式会社アコースによる活動量計の展示・商品説明、大塚製薬株式会社による飲料のサンプリング、そしてエア・ウォーター株式会社による手作り健康弁当の販売等が行われ、いずれも盛況の様子でした。

第1回松本大学健康首都会議は、松本大学松商短期大学部の開学70周年、松本大学の開学20周年及び大学院健康科学研究科の開設10周年の記念事業として開催されました。今後も、本学が“地域における知の拠点”として機能すべく、こうした市民参加型の講座を提供していくことができると考えております。より発展した“第2回松本大学健康首都会議”に、乞うご期待!!

ご来場いただいた参加者の皆さま、開催にあたりご協力いただいた関係者の皆さまへこの場を借りて深く感謝申し上げます。

寄稿

卒業生が講師として登壇

大学での学びや経験を生かして運動指導

株式会社池の平ホテル&リゾート 健康運動指導士 助川 由衣
(スポーツ健康学科2021年3月卒業)



今回は、“高原リゾートでリフレッシュ！いきいき健康になろう”をテーマに、大学生活で学んだ「健康づくり」の中でも、運動に着目して講義をさせていただきました。



講義内容をまとめるにあたり、大学時代の講義で学んだことや、ゼミ活動を通じて実際に地域の方々に運動指導を行っていた経験が大きく、今の職場にもいかされていると感じました。当日の講義では、運動を行う上での重要なポイントをいくつか紹介させていただきましたが、実際に立ち上がりテストを実践したことで現在の体力レベルを知り、ご自身に合った運動強度での運動を取り入れてもらえたら嬉しいです。

講演後は受講者の皆様から多くの質問

もいただき、改めて参加された皆様の健康づくりへの意識の高さを感じました。そういった方々のためにも、今後ますます自己研鑽に励み、正しい知識を身につけつつ、自分らしい言葉で多くの方が楽しく続けられるような運動指導をしていきたいと思いました。

2年前まで学生として学んでいた場所で、こんなにも早く講師側に立てるとは思ってもいみませんでした。貴重な経験をすることができました。

REPORT | 当日開催した講座の一部をご紹介します |

「運動」による健康づくり



実践講座 中高齢者を対象とした
【フレイル予防のための運動実践】
講師：スポーツ健康学科 根本ゼミの学生

「心」の健康づくり



自分にやさしく、ひとにやさしく
講師：学校教育学科 下山 恵子 准教授

「食」に関わる健康づくり



健康寿命延伸に向けた「神奈川県未病改善ツアー、健康栄養学科のフレイル予防食品臨床試験」の紹介
講師：大学院健康科学研究科・健康栄養学科 弘田 量二 教授

「子ども」の健康づくり



キッズサッカー教室
講師：松本山雅FC・松本大学男子サッカー部

「社会生活」と健康づくり



「色彩」と健康
講師：松本大学松商短期大学部 金子 能呼 教授

「専門分野」による健康づくり



未病を克服して健康寿命延伸を目指す音楽療法
講師：松本大学 和合 治久 客員教授

「地域」の安全を守る



家族を守るために知っておきたい応急手当
擦り傷から心肺蘇生法まで
講師：松本大学健康安全センター 脇本 澄子 保健師

体験講座 体力測定をしてみよう



地域健康支援ステーション

手作り健康弁当の販売



協力：エア・ウォーター株式会社

参加者の声 (一部抜粋)

今回の講座について

- ・楽しく講座に参加させていただきました。プラチナ世代にはありがたい知識の場となります。久しぶりに大学生の気分を味わっています。
- ・学長のお話がこれからの生き方を改めて考える良い機会になりました。
- ・このような勉強になる機会をもっと数多く実施していただけるとありがたいです。本日の応急処置の講座はとても有意義でした。
- ・地域防災のお話はとても参考になりました。学生さんたちのラジオでのお話もよく聞きます。学生さんの発表も聞きたいです。
- ・ウォーキングはバンザイをしてから歩き始める。“手を広げて歩くときは大腿で、3歩に1歩は大腿で、スクワットを毎日”書ききれない、良いことがいっぱいでした。

- ・栄養バランスのとれた食事と運動について、また休息をしっかり心掛け、張りのある生活を、今後頑張る余生を過ごしたいと感じました。
- ・家ででもできるスクワットや片足立ちなど続けたいと思います。大変参考になりました。
- ・TVや新聞では聞けない大事なことを教えてもらいました。なかなか相談に出向いていけないので個別に相談もでき助かりました。
- ・自然の中の緑、そして横の線は癒され、ビルの立ち並ぶような縦の線はストレスになるのだと教えていただき、改めて自分の住んでいる安曇野の地の素晴らしさを思います。二年くらい県外への旅ができていないのでまた出かけたいと思っています。

今後開講を検討してほしい講座等

- ・現在の政治展望について。
- ・介護の負担を軽減してやれる講座、AEDを使用するの講座等があれば是非受講させていただきたいです。
- ・健康面で日常的に取り入れていける内容の体験型講座もあつたらいいと思いました。

- ・認知症と同居する家族の生活、精神面のあり方について
- ・リビングウィルについてさらに詳しい説明をしていただける講座を次回お願いできたらと思います。引き続きフレイル予防の講座をお願いしたいです。



松本大学のリカレント教育

5月12日より講座開講！ 本学の持つリソースを広く地域社会に還元



副学長・松商短期大学部長 教授 浜崎 央

広く地域の方を対象とした リカレント教育を企画

本学では本年5月より社会人を対象としたリカレント教育の講義を開講します。リカレント(recurrent)とは、「循環」や「再発」を意味しており、社会人になった後も、必要なタイミングで教育機関や社会人向け講座に戻り学び直し、それをまた社会で活かしていく学びのことを指しています。IoTやAIなどSociety5.0と呼ばれる時代において、



社会の環境や経済の仕組みも急激に変化しています。それに伴い職業や働き方も変わる必要がでてきており、仕事において求められる知識や技術も複雑になってきました。そのため、一般的なリカレント教育では、現在の職務に必要な知識を学び直す「アップスキリング」や、現在の職務の中では身に付けることが難しい時代のニーズに即した技術を学び直す「リスキリング」といった、仕事に活かせる学びという意味合いが強いもの

です。しかし、本学のリカレント教育では、仕事に活かせる面だけでなく、仕事から離れた社会人の方々も含め、広く地域の方々を対象に、「日々の生活を豊かにするための知識」を身に付けることで、今後の人生の幅を広げてもらいたいと考え、今回のリカレント教育の企画を行いました。

現代社会を考える上での 最新のテーマで講義を展開

本学では総合経営学部、人間健康学部、教育学部および短期大学部の4つの学部があります。それぞれの学部において学べる内容は違っており、社会に密接する幅広い専門分野において専任の教員が研究や教育を行っていることも本学の特徴の1つです。そのような本学において、今回は「現代社会を考える多彩な知識を身に付ける」をテーマに、それぞれの学部・学科の特徴を生かした12のテーマを掲げ、毎週1つずつ、現代社会を考える上での最新のテーマを学ぶ講座リカレント教育を開講します。今回のリカレント教育をきっかけに、より社会や企業が求めるテーマに絞った深い学びの場を提供していくことや、大学院へのつながりなどにも発展させることも考えられます。本学の持っているリソースを広く地域社会に還元することで、地域の住民の方々と一体となり本学の地域貢献活動のさらなる深化につながることを期待しています。

◎開講科目一覧

本学の教員がオムニバス形式で講義を展開します。

■会場：松本大学5号館 ■講義時間：18時～19時30分 各回90分

	開催日	テーマ	講師
第1回	5月12日(金)	信州経済の歴史	大学院総合経営研究科 木村 晴壽 教授
第2回	5月19日(金)	県内観光の行方	観光ホスピタリティ学科 山根 宏文 教授
第3回	5月26日(金)	長野県の製造業	大学院総合経営研究科 兼村 智也 教授
第4回	6月 2日(金)	フレイル予防のための食事	健康栄養学科 成瀬 祐子 専任講師
第5回	6月 9日(金)	あなたの筋肉元気ですか	大学院健康科学研究科 河野 史倫 教授
第6回	6月16日(金)	膝痛、腰痛予防のための運動法	スポーツ健康学科 伊藤 真之助 専任講師
第7回	6月23日(金)	シニアの学びと生涯学習	学校教育学科 大蔵 真由美 准教授
第8回	6月30日(金)	唱歌・童謡・わらべうたの継承	学校教育学科 安藤 江里 准教授
第9回	7月 7日(金)	道徳教育の歴史(修身から教科道徳まで)	学校教育学科 松原 好広 准教授
第10回	7月14日(金)	八十二銀行と長野銀行の統合の意味は	松商短期大学部 飯塚 徹 教授
第11回	7月21日(金)	知ると楽しくなるマーケティング戦略	松商短期大学部 金子 能呼 教授
第12回	7月28日(金)	AIは人間を超えるか	松商短期大学部 浜崎 央 教授

募集要項

■受講条件

職業、学歴等の条件はありません。
どなたでもご参加いただけます。

■受講料

全12回 15,000円/人(最低履行人数16名)
※欠席等の場合でも、ご返金できませんのでご了承ください。
※お車でお越しの場合は、別途駐車場料金が必要となります。

■申込期間

2023年3月6日(月)～4月7日(金)まで

■申込方法

下記QRコードよりお申し込みをお願いします。

■お問い合わせ

松本大学教務課 0263-48-7204
recu@t.matsu.ac.jp



地域連携活動

最近の活動から

棚田の再生と松本の飴文化を広げる ～「松本の白い雪」「万能あめ」の開発～

地域・企業・大学との連携による商品開発の取り組みは、農業生産法人かまくら様と地域の方たちが取り組んでいた棚田再

生の活動をお聞きしたことはじめます。棚田風景の再生を目指す活動に対して共感した地域づくり考房『ゆめ』のメンバーを

り組むことになりました。「松本の飴文化」を学んだ観光ホスピタリティ学科向井ゼミの学生が中心となり、商品名やラベル制作に取り組み、米飴をボトルに詰めた「万能あめ」、飴玉の「松本の白い雪」を開発することができました。本商品の開発に関わった学生たちは、「松本あめ市」での販売活動にも取り組みました。多くの人たちに本品を手にとっていただき、松本の飴文化と棚田再生への思いを共有することが出来たらと考えています。

(観光ホスピタリティ学科 准教授 向井 健)



学生たちが関わって開発された商品

中心に、四賀地区の保福寺集落でもち米の栽培をはじめました。この棚田でとれたお米の活用方法を検討していく中で、350年以上の歴史を持つ老舗飴屋の山屋御飴所様が米飴の製造にご協力いただけることとなり、学生たちは棚田米を使った米飴の商品化に取

地域づくり考房『ゆめ』

新たな地域交流を展開する茶房「ひといき」の活動

今から4年前、「ゆめ」の学生たちは大学北側入り口近くにある「みすゞ屋」の店舗をお借りして地域の人々とともに2019年の4月に喫茶を始めました。「みすゞ屋」プロジェクトと称したこの活動は世代を超えた地域交流の場として盛り上がりを見せていましたが、翌年コロナ禍に見舞われ喫茶の活動を中断せざるを得なくなりました。「ひといき」は、その「みすゞ屋」の活動を基に、新村多目的研修センター、新村公民館、大学などを会場にして、地域と学生の交流の場として喫茶を中心に多様な活動を織り込んだ交流プロジェクトです。

当初のいわゆる地域の方々との世代を超えたお茶会は、学生たちの工夫もあって

徐々に参加者ひとりひとりが当事者意識を持つ中で、皆で作りに上げる交流活動の場として変化してきました。地域の参加者も新村地区全体に広がり、学生も当該のプロジェクト以外からも加わるようになってきています。最近では地域の方々も学生も自分たちでアイデアを出し合って様々なイベントを準備するようになりました。今年度後半からは学生の中から「新村音頭」を学びたいという声上がり、地域の皆さんと学生で踊りの練習も始めています。地域の歴史を知る活動、地域の無形文化を伝える活動等、さらに活動の輪は広がっています。

「ひといき」に参加した学生たちは、地域の



人たちと本音で語り合うことができます。それはいわゆるおもてなしではなく、本当のコミュニケーションづくりの体験です。時には耳障りのいい話題だけでありません。しかし、学生も地域の方々も本気で相手を思いやりながらイベントを作り上げています。「ひといき」は参加者全員が主役となって活動を進め、新たな物語が再び始まろうとしています。

(地域づくり考房『ゆめ』専門員 大野 整)

地域健康支援ステーション

松本市からの依頼による体力健診事業の“からだチェック”



地域健康支援ステーションでは、2019年度より松本市健康づくり課と業務委託契約を締結し、体力健診事業である“からだチェック”を実施しています。今年度は松本市内22カ所のがん検診・特定健診結果説明会会場にお伺いし、希望された方に同会場にて無料でからだチェックを行いました。

内容は形態測定(体組成)・握力・柔軟性・脚筋力です。体力測定を初めて受ける方も多く、初めは緊張されている方も、測定が進むにつれて楽しみながらご参加いただいています。

測定後は、当ステーションの健康運動指導士より個別で結果説明を行い、日頃の生活に取り

入れられるお勧めのストレッチ等の資料をお渡ししています。参加者からは「体力不足を痛感した」「自分の体力を知ることが出来て良かった」等、沢山の感想が寄せられました。筋力は40歳を過ぎると、1年で1%ずつ減ると言われています。人生100年時代の今、市民の皆様への体力向上の一助になっていれればと願っております。

2023年度もからだチェックの実施を予定していますので、各種検(健)診会場に足をお運びの際には是非からだチェックにもご参加いただけますよう、スタッフ一同お待ちしております。

(管理栄養士 長沼 伊穂子)

卒業研究・卒業論文発表会

学部生、短大生が専門ゼミで取り組んだ卒業研究の集大成として、各学部、学科において「卒業研究・卒業論文発表会」が開催されました。今年は全学部が対面で実施することができました。特に教育学部は、開設後3期生にして初めて、対面での実施となりました。学生たちの発表内容は多岐にわたり、聴講していた教員や学生から活発な質疑応答が繰り広げられ、充実した発表会となりました。

総合経営学部

全員が口頭発表を行いました。

総合経営学科 (口頭発表:81題)

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ	氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
阿部 花梨	清水	小売業における社会貢献のあり方と小売業で働く私のキャリアプラン	神田 来夢	小林	株式投資の「2つの波」
伊藤 柊	清水	サッカー観戦における面白い見方	酒井 大輝	小林	チャート分析から分かること
掛川 雅斗	清水	メンズ美容の変遷と私のキャリアプラン	北澤 昇伍	小林	オリックスが勝つとオリックスの株価は上がるのか?
塚田 夢生	清水	住まい選びと暮らしとの関係について	萩原 桃太	小林	～野球チームを応援して資産を増やそう～
續木菜々子	清水	塩尻市の人口・農業の現状と課題	山後 郁実	小林	不登校について
中野晃太郎	清水	私のキャリアプランー警察官になるためにー	赤羽 悠生	小林	ペット産業について
三澤 友美	清水	東御市におけるワイン産業の発展	赤津 美優	小林	新たな付加価値を生み出すリノベーション投資とは
宮澤 優也	清水	「ツルヤ」のプライベートブランドに関する一考察	川嶋 智己	小林	セルインメイから見る1年間の株価の動き
山根 悠	清水	雑貨店開業の構想	古着の歴史と店舗形態に関する一考察ー古着屋147への提案ー	室谷 空	ドラえもんから見る漫画の世界と私たちの生きる世界の社会背景
朝原 杏奈	清水	日本の銃規制と狩猟に関する一考察	森 一馬	室谷 空	献立から見る学校給食の地域ごとの特色
五味華奈子	宇都	パッケージデザインと購買意欲の関係性	五味華奈子	宇都	画像分類による邦楽と洋楽の違い
大丸 夏星	宇都	自治体目線で分析するコンテンツリズム観光	大丸 夏星	宇都	日本プロ野球のセーバーメトリクス
坂口 詩歩	宇都	YouTubeが地域に与える経済への影響	坂口 詩歩	宇都	めぐまテレビとYahooの星座占いの比較
田村 杏佳	宇都	3歳までの子供に対する教育のあり方	田村 杏佳	宇都	バイクの魅力と国内3社(ホンダ・カワサキ・ヤマハ)とスズキ(二輪)の戦略比較
牧野名誉之	岡崎	再考:高度成長期に生じた地方衰退の「ポイント・オブ・ノーリターン」ーパブル崩壊起源説に対する批判的検証	原田 成	室谷	国内3社(ホンダ・カワサキ・ヤマハ)とスズキ(二輪)の戦略比較
金山りりか	岡崎	毒キノコから検証する自然環境の変化と地方行政の課題ー長野県内の「きのこ衛生指導員制度」を中心に	藤原 竹琉	室谷	善光寺御開帳から見るターゲット層の変化
井出 新	岡崎	技能実習生に頼る移民大国・日本の地域社会ー各地の実情から見た政策的課題	二木みのり	室谷	Javascriptを使ったスマホゲームアプリの作成
白井 冬希	岡崎	格差社会ー多様化する若年世代への支援策と地方行政の課題	宮澤 梓	室谷	芸能人着用衣装検索サイト企業のビジネスモデル
宮岡 享佑	岡崎	地域の人材育成機関における児童の多様化と現場の課題	宮島 周平	室谷	長野市のLRTの導入は現実的なのか
河手 崇祥	岡崎	日本のコロナ行政から見た「組織」の限界ー付度と空気が醸成する遅れた対応	矢次 瞬輔	室谷	日本のeスポーツの現状と今後の展望
松本 栄	岡崎	貧困化と格差の拡大が進む地域の本質的課題ー沖縄県を例に	湯本 千夏	室谷	株値から見る「日経ビジネス未来を拓く日本の100社(2011.10.17)」の答え合わせ
伊藤 僚哉	岡崎	産業廃棄物処理から見た地方行政の課題と今後ー「産業廃棄物税」導入の意義	横内 陸	室谷	GIS情報に基づく交通弱者の実態分析
山田 太聖	岡崎	増加する児童虐待と今後のまちづくりの課題	横矢龍太郎	室谷	データサッカー国内
小岩井春輝	岡崎	地方銀行と「地域密着型経営」の課題	松井 疾風	佐藤	タバコの需要
小林 雅弥	岡崎	地域振興策における「聖地巡礼」とアニメの魅力	山田 祥輝	佐藤	人口構造の変化と経済成長
上山 晃史	岡崎	「聖地巡礼」に賭ける地方とその課題	荻久保彩実	佐藤	多国間フェアトレードの経済分析
坂口 雄紀	古川	デジタルゲーム作品のキャラクターにみるダイバーシティ観	市川 環	古川	長野県における現存共同利用型オフィスの特徴
高野 聖也	古川	アマビエブームにみる日本の妖怪観	小野 紘平	古川	長野市と松本市の空き家対策の比較
竹重 俊輔	古川	カジュアルファッションブランドの海外進出分析	加藤 丈皓	古川	地方都市周辺部におけるベッドタウン化の特徴
藤田 博大	古川	地方鉄道路線の運輸・財務分析	上沼 颯太	古川	ケーブルテレビ会社の新展開ー長野県を事例にー
伊東 歩夢	佐藤	人工知能技術が生み出す短歌にみられる私性の欠如	小池 隆太	古川	地方における映画館の立地変化と存在意義ー甲信越地方の分析を通してー
傘木 啓伍	佐藤	新卒一括採用における早期選考の問題点	青木 夕莉	兼村	100円ショップとSDGs
鴨居 雄次	佐藤	顧客の分布を考慮した企業の立地戦略	有賀 龍樹	兼村	コンビニにおけるドミナント戦略
坂口 圭介	佐藤	人工知能技術の普及と労働者の失業	池田 聖哉	兼村	宅急便の誕生から現在に至るまで
関 優那	佐藤	コンサルティング事業におけるチケットの販売戦略	久保田梨奈	兼村	テイクアウトの経営戦略
増山 亮	小林	実例と実践から紐解く株の投資理論ー筆者の実際に株式投資を行った経験に基づくー	小林 滉	兼村	ドールコーヒーの差別化戦略
小林 航大	小林	空売りだけで利益を出すことは出来るのか	鈴木 伸司	兼村	事業承継問題について
小林 優斗	小林	移動平均線が1本、2本、3本どの時が一番取引に最適なのか	関澤英美那	兼村	ドン・キホーテはなぜ成長しているのか
池田 千里	小林	アイヌの口頭伝承と現代社会	寺沢 俊輔	兼村	コンビニ業界の社会貢献活動にみる差別化戦略
望月 清楓	小林		橋澤 京弥	兼村	信州BWから見る事業戦略
杵淵 春陽	小林	アカデミー作品賞受賞の傾向	林 明香里	兼村	ワークマンの業績が伸びている理由とは?
			丸山 大輝	兼村	ユーザー・インバージョン

観光ホスピタリティ学科 (口頭発表:31題)

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ	氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
塩原 寛大	益山	Starbucksとコメダ珈琲の体験価値に関する大学生の意識調査	今村 朔也	白戸	[若者]をキーワードにした商店街づくりの可能性
金子夢有斗	益山	ツルヤオリジナル・プレミアムジャムのプライベートブランド戦略ーストアロイヤリティを県内外から獲得するPB商品とはー	小節 開斗	白戸	～土土商店街の事例から
丸山 怜	益山	Twitterの人気イラストと描き手の意識に関する一考察	竹節 新	白戸	待機児童問題における保護者のニーズと提案
宇佐美千由	益山	オンラインライブとライブビューイングの共存	小林菜々子	今村	～ブログの内容に基づく分析
甘利 朋寛	益山	松本山雅FCの成績によるグッズの売り上げの変動	窪田 英治	今村	子育てをする上での子どもの居場所づくり事業の役割
小坂 祐輔	益山	学生野球の不文律ー中信地区の高校生から学ぶー	大塚 彩乃	今村	
中曽根 翔	益山	松本市における観光振興と教育活動が融合した博物館の在り方について	北村 凜果	今村	大学生における親への愛着と恋愛依存の関係
上原 涼夏	益山	聖地巡礼を目的としたキャンプに関する大学生の意識調査	中村 有那	今村	大学生の性に対する意識分析
榎詰 杏	益山	漫才におけるツッコミの種類と賞レースで評価される漫才の傾向	下里あかり	今村	福祉サービスの認知に関する現状と課題
菅根原優香	益山		上林麟太郎	今村	Instagramの利用によるネガティブな感情についてー大学生を対象としたインタビュー調査より
岡田 開成	益山		宮下 晃稀	今村	薬物問題を取り巻く議論の分析ーインターネットにおけるコメントの内容分析からー
内田 汰一	畑井	防災・減災において共助がもたらす重要性	島田 湧登	今村	
川嶋 悖哉	畑井	地域のお祭り・伝統行事が地域コミュニティに与える影響	中山 裕真	今村	
今野まいな	畑井	持続可能な自治会・町内会を目指すために～女性や若者を増やすには～	石田 修也	今村	
藤澤 優輝	畑井		小川 曾広隆	今村	
松澤 咲	畑井	若者の起業活動に影響を与える要因に関する研究	駒込 晴香	松田	子どもの居場所づくりを考えるー「おらんちdeランチ」を通して
宮澤 昂大	畑井		花岡 大和	松田	
小林 匠	畑井		平山 結花	松田	
小池 步昂	畑井	個人商店における消費者購買行動に関する研究	丸山 淳也	松田	
笹山 智世	畑井		丸山 莉奈	松田	
原 望	畑井		泉山 長澤	山根	大町市における道祖神を活用したサイクリング観光
坂井 鈴佳	畑井		日橋 彩夏	山根	自然体験が不登校児童生徒に及ぼす効果
野本 咲	白戸	商店街を活性化させるために必要なものはなにかー土土商店街の事例から学ぶ	清水 一輝	山根	
原 歩夢	白戸		高見澤将斗	山根	松本山雅への地域課題解決のための提言
平井 太智	白戸		青木安里磨	山根	
藤本 優佳	白戸		熊谷功太郎	山根	
市川 緒人	白戸		近山 竜	山根	アニメ聖地巡礼を活かした観光振興
春原 拓海	白戸	景観から考える街づくりー土土商店街のデザイン・コードを事例として	竹村 朋矩	山根	ゲームと観光
高橋 圭介	白戸		杏 直樹	山根	キャラクター作成における著作権の研究
塚田桂太郎	白戸				

人間健康学部

代表者のみ口頭発表をし、その他全員がポスターにて発表を行いました。

健康栄養学科 (口頭発表:14題、ポスター発表:24題)

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
高木 芹奈	平田	大学生による「赤黄緑の3色食品群」を用いた食品分類
畠山 りか	青木	食事摂取内容と早期尿の栄養素測定による一大学生の栄養摂取評価
小田切美緒	弘田	神奈川県湯河原町における青年期の肥満と飲酒量・頻度の関連
平野 真衣	長谷川	高校男子バスケットボール部選手のための地域資源を活用したスポーツ合宿の検討
新井 めい		
土田 青海	成瀬	高校生の昼食の実態調査および改善のための中高生への働きかけ
柳沢 歩		
久保田綾乃		
西澤 里歩	石原	鹿肉の浸漬による嗜好性への効果
本山 成美		
山崎 啓幸		
大峽 萌	沖嶋	栽培条件によるリンゴアレルゲンコンポーネントMal d 1含有量の違い
倉科 明佳		-有袋と無袋の比較-

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
押金 陽子		
中島 実咲	藤岡	アガロオリゴ糖摂取はプレレイルからフレイルへの進行を抑制できるか
中村 凌子		
山本菜由夏		
内田みつき	木藤	ヨーグルトの味覚評価
田村 晴香	福島	ベジタリアン食が肉食文化・環境に及ぼす影響
木村 彩花	矢内	味認識装置を用いた、蕎麦の評価法の開発
古澤 多笑		
青木 美香	山田	SHARP family によるラット PEPCCK 遺伝子の転写抑制機構の解析
荒井 悠司		
高橋 佑菜		
岩下 有紀	高木	3-メトキシチラミンによる
小林 愛佳	廣田	糖新生系酵素 PEPCCK 遺伝子の発現抑制機構の解析
三崎 元大		栄養について学ぶことは、栄養情報の判断にどのように影響するか

スポーツ健康学科 (口頭発表:14題、ポスター発表:95題)

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
渡邊 将大	山本	足関節のサポーター固定が等速性筋力発揮に及ぼす影響
平山 遥香	伊藤	キッズヨガが4歳児 5歳児の身体機能・立位姿勢に与える影響
石田 千登	根	足趾把持筋力を算出する予測式の検討
渡邊 文乃	中島節	大学生のアンケートからみる日本の保健学習の現状と課題
中澤健太郎	小松	保健体育教員志望者を増やすためには -教職履修者のアンケートから-
倉石 夏美	上野	日本の女性管理職の現状と課題
小松 由佑	等々力	我が国のウエイトリフティングのこれから -他のスポーツと比べて-

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
本間 岳翔	河野	加齢に伴う骨格筋の衰えやすさとサテライト細胞リザーブ化の関係
田多井遼河	中島弘	競泳ジュニア選手が求めるフィードバックについて
傘木 佑介	田邊	新型コロナウイルスが救急医療現場に及ぼす影響について
濱名 真央	齊藤	大学生サッカー競技者はなぜ競技を継続してきたのか?
今井 有香	岩間	性に関する指導の現状と今後の展望を考える
平出 裕樹	新井	なぜ男性は女性化されたヨガを実施するのか
畔川恵之	丸山	跳び箱における踏切時の腕振りの有効性についての研究

教育学部

代表者のみ口頭発表をし、その他全員がポスターにて発表を行いました。

学校教育学科 (口頭発表:17題、ポスター発表:72題)

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
内堀 菜利	和田	中学校外国語科writing 活動における相手意識の一考察
丸山 寛大	山本	松本市の小学校におけるパラスポーツの取り組みに関する一考察
朝日 優奈	上月	深層を育む生活作文の学習デザインへの検討
上野 漱音	大蔵	初等教育における漫画の教育的価値 -漫画「ハイキュー!!」を検討する-
牛山 陽菜	海沼	日本におけるHSP・HSCの研究動向と今後の展望
牛山 裕也	岸田	自然体験活動における対人関係ゲームを導入した効果の検証
川脇 志帆	大石	体育・保健体育科における「NIE」の実践に関する考察 -子どもたちの体力を高める観点から白米の比較をもとに-
齋藤 鴻我	下山	不登校は選択肢の一つである ~児童生徒のイメージを払拭し、充実した学びの環境を提供するには~
奈須 芳永	秋田	ロール・プレイングを用いて民主政治における国民主権の意義への理解を促す 小学校社会科授業 -第6学年「国の政治の仕組みと選挙」の取組より-

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
花岡 星奈	御代田	英語の話すことでの指導のあり方に関する研究 -学習指導要領の分析と実践記録の研究を踏まえて-
福澤 美沙	濱田	部活動の指導者と生徒の関係作り -体罰の観点をもとに-
水澤 南	征矢野	モラルジレンマに関する考察
宮越 菜緒	藤原	日本語と英語のマンガと日英表現の事態把握との相同性についての一考察 -コマ割り視点の違いを中心に-
宮坂 優希	安藤	小学校音楽科における鑑賞教材の変遷と意義
村木 敬	佐藤	小学校第5学年「割合」の指導に関する研究 -差による比較から割合による比較への移行に焦点を当てて-
山口 龍成	澤柿	てこのつり合いの等式と力のモーメントを視覚的に関連づけるための教材開発 -面積表象に着目して-
山崎 和音	樋口	入院児のQOLに対するクリニックラウンジの効果

松商短期大学部

代表者のみ口頭発表を行いました。

商学科 ■ 経営情報学科 (口頭発表:7題)

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
牛越 悠登	中山	大学生のファッション意識調査
小出花那乃	浜崎	3Dアプリケーション(VR)の開発[Skewer games]
鹿川 怜央		
山崎 綾音	飯塚	カプセルトイレ分析
小島 怜		
高橋 晴奈	廣瀬	ステッキのオリジナルデザイン~世界に一つだけの杖~
高宮 真優		
小平 菜里		
岩下 真夕	山添	TDRの経営分析
三谷 萌恵		
原 美鈴		

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
深澤 里織	飯塚	少年漫画と少女漫画の経営比較
村松穂奈美		
小林 滯奈	中村	ディズニー映画のグローバル化 -悪役に着目して
伊藤 沙恵		
原 愛深		

※順不同 ※口頭発表者の研究テーマのみ掲載

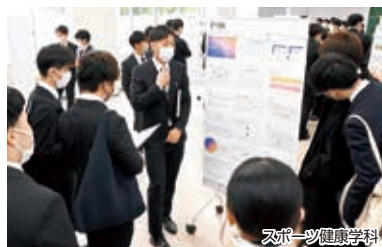
研究成果はポスターでも発表が行われました

今回掲載している各学部・学科の卒業研究テーマは、口頭発表者のみとなっておりますが、健康栄養学科、スポーツ健康学科、学校教育学科では、同日に、講義室や体育館等を活用してポスター

による発表も行いました。会場内の各所にて自分の研究を説明する4年生の姿や、興味がある研究の話積極的に聴く在学生の姿が見られ、非常に活気のあるポスター発表となりました。



健康栄養学科



スポーツ健康学科



学校教育学科

大学院健康科学研究科修士論文審査発表会

健康の維持・増進に貢献する 素晴らしい研究成果

大学院健康科学研究科・健康栄養学科長 教授 高木 勝広



2月14日、大学院健康科学研究科の修士論文発表会が開催されました。今年度の発表者は2名で、いずれも河野史倫教授の研究室からでした。一人は、2020年末に来日したドミニカ共和国からの留学生です。新型コロナの不安に加え、言葉や気候、文化などが違うなかでの日本の生活は、筆舌に尽し難い苦労があったのではないかと想像しますが、自信に満ちた表情で堂々と発表・質疑応答していた姿が印象に残りました。もう一人は人間健康学部から進学した院生でした。二人の発表は、加齢、運動習慣による骨格筋の質の低下を、エピジェネティクスという最先端の視点で解明しようとするもので、これらの仕組みが解明できれば、ヒトの健康の維持・増進に大きく貢献できるものと期待しています。

発表者	論文タイトル	
エミルセリナ ロサフレテ	加齢によるマウス骨格筋の運動応答性変化とそのエピジェネティック機構の検討	Epigenetic regulation of gene responses to exercise in skeletal muscle of young and middle-aged mice
小林 与毅	運動による骨格筋ヒストンターンオーバー活性化におけるヒストンシャペロンSPT16の役割	Role of SPT16 in Activating Histone Turnover in Skeletal Muscle

多岐にわたる研究発表 第11回松本大学教員研究発表会

研究推進委員長・教授 増尾 均

去る2月20日、21日の二日間にわたり、第11回松本大学教員研究発表会を開催しました。今年は、一会場で両日午後の開催となりました。昨年より多い31名のエントリーで32演題の発表がありました。本年度

も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の流行のため、研究の中止、あるいは縮小を余儀なくされた教員がいました。このような苦しい研究環境の中、新しく着任した教員の研究発表、また学外の研究助成費



による研究発表も見られ、個々の教員相互の研究に対する関心の高さとこの研究発表会への盛り上がりを感じられました。

発表内容一覧 (順不同)

研究課題	発表者
マウス3T3-L1脂肪細胞における各種転写因子遺伝子の発現調節と標的遺伝子の検索	大学院健康科学研究科 / 健康栄養学科 山田 一哉
急増する閉経前乳がん発症を背景として女子大学生における食習慣とエストロゲン過剰分泌の関連性の検討	大学院健康科学研究科 / 健康栄養学科 青木 雄次
味認識装置を用いた市販および自家製ヨーグルトの味の比較	大学院健康科学研究科 / 健康栄養学科 木藤 伸夫
イソチオシアネート化合物による糖新生抑制機構の解明	大学院健康科学研究科 / 健康栄養学科 高木 勝広
中・高齢者のフレイル予防対策としてのファストフード活用に対する意識とヘルスリテラシーおよび栄養知識との関連	大学院健康科学研究科 / 健康栄養学科 廣田 直子
鹿肉の性状に及ぼす浸漬操作の影響について	大学院健康科学研究科 / 健康栄養学科 石原 三妃
衰えない骨格筋をつくるための運動化メカニズム追究	大学院健康科学研究科 / スポーツ健康学科 河野 史倫
不確実な売上高の下で資本制約の供給業者を持つサプライチェーンコーディネーションと実証研究	大学院総合経営研究科 / 総合経営学科 田中 正敏
物質と光の相互作用による熱現象を理解する教材の開発と活用	大学院総合経営研究科 / 総合経営学科 室谷 心
M&Aにおける買収側と被買収側の人事部門の役割：百貨店企業の経営統合に関する事例研究	総合経営学科 三浦 友里恵
避難情報の放送史—災害時、ラジオ・テレビは避難をどう呼びかけてきたか—	観光ホスピタリティ学科 入江 さやか
Flavan-3-olsなどのポリフェノール類は、Mal d 11によるリンゴPFASの口腔症状へ関与するか	健康栄養学科 沖嶋 直子
メタゲノム解析による赤ワインの香味を決定づける発酵微生物叢の解明	健康栄養学科 浅野 公介
脂肪細胞におけるホルモンによるSHARP-2 遺伝子の発現調節機構の解明	健康栄養学科 塩谷 一紗
新型コロナウイルス禍での状況が幼児の身体に及ぼす影響について	スポーツ健康学科 中島 弘毅
上肢と下肢の中強度(15RM)レジスタンス運動が一過性に動脈ステイフネスに及ぼす影響	スポーツ健康学科 山本 薫
スポーツ観戦における価値意識の検討	スポーツ健康学科 本間 崇教
松本大学教職センターの充実を目指した教職課程授業と教師の資質能力向上との接続に関する研究開発	スポーツ健康学科 (教職センター) 山崎 保寿
地域民話を取り入れた絵本童話の作成と活用による地方の文化創生	スポーツ健康学科 (教職センター) 山崎 保寿
社会科授業におけるFUMIEテストを用いた中学生の女性に対する潜在意識測定	学校教育学科 秋田 真
適応障害の受診からASDと診断されたセルフケース報告	学校教育学科 石黒 栄亀
SDGs達成のためのESD関連教材の試作・開発 —南極素材の教材化に向けて—	学校教育学科 澤柿 教淳
発話の創出	学校教育学科 和田 順一
明治初期における唱歌教育とわらべうた	学校教育学科 安藤 江里
小学校第5学年百分率の指導に関する一考察 —子どものインフォーマルな知識に着目して—	学校教育学科 佐藤 茂太郎
ピア・サポートプログラムとセルフ・コンパッションの関係	学校教育学科 下山 恵子
道徳授業の現状を踏まえ、問題解決的な道徳授業の指導過程の構想	学校教育学科 松原 好広
高校生における学習動機づけの社会的伝達モデルに関する研究：友人関係に着目して	学校教育学科 海沼 亮
芦田恵之助の「読み方教授」における学習者の自己内対話 —「教壇記録」を手がかりに—	学校教育学科 上月 康弘
算数障害のスクリーニング検査の開発	学校教育学科 山本 ゆう
世界金融危機後の銀行の破綻処理法制の考察	松商短期大学部 (経営情報学科) 飯塚 徹
財政状態変動表の理論的枠組みと表示方法に関する研究 —非営利組織会計における情報提供能力—	松商短期大学部 (商学科) 上田 敬

健康栄養学科の学生が考案した「縄文ジビエ料理」がモニターツアーで提供 参画した観光庁の受託事業の旅行商品として採択

健康栄養学科 専任講師 長谷川 尋之
 健康栄養学科 助手 小木 ひかる

一般社団法人未来投資研究所からの依頼により「The Power of JOMON With Gibier」～1万年のパワーを今に活かす茅野の縄文・ジビエ～ 事業に、健康栄養学科の学生が参加しました。本事業は、観光庁の「地域独自の観光資源を活用した地域の掲げる看板商品の創出事業」のひとつで、「縄文」「ジビエ」「スポーツ・健康」をキーワードに進められ、学生たちはジビエ料理のレシピ提案を行いました。

鹿肉は、低エネルギー・高たんぱく質・豊富な鉄分と良質なたんぱく源である一方、独特の風味や臭みがあり、一般的に美味しいイメージを持たれていません。そこで、「スポーツ選手や愛好者をターゲットに食べやすく栄養満点な弁当や補食」と「家庭でも簡単に、美味しく食べられるジビエ料理」の2つのテーマでレシピ開発を始めました。

スポーツ選手向けの弁当と補食のレシピは、健康栄養学科の有志学生の応募作品から選出し、家庭料理のレシピは、石原ゼミナールの3年生がゼミ活動として検討しました。レシピ開発にあたっては、茅野市にある

レストラン「エスポワール」のオーナーシェフ 藤本徳彦氏をはじめ、多くの関係者の助言をいただき、試行錯誤の末11月下旬に弁当2種類、補食1種類のレシピが完成しました。

試食会は、12月19日に茅野市にあるワークラボハヶ岳で開催されました。学生たちは講義等の都合で欠席しましたが、本学教員の長谷川と小木ひかるの助手が出席しました。試食会は、信州松本ダイナブラックスに所属するプロバスケットボール選手の武井弘明氏のほか、茅野市の市役所職員など約20名の参加があり、提供メニューは茅野市「お食事けんろく」の西尾卓氏が調理しました。参加者の多くから、鹿肉の臭みや風味がなく非常に美味しい、ボリュームがあって食べ応えがあるなど参加者の多くに好評でした。

また、本事業は、旅行商品として観光庁に採択され、2月3日～5日にかけて一般の方々を対象にモニターツアーが行われました。関東、関西地方から集まった25名に健康栄養学科の学生が考案した3つのジビエ料理が提供されました。

「学生が考案したジビエ料理」

スポーツ選手向けジビエ弁当
 「鹿肉と焼き野菜の弁当」
 疲れた運動後でも食べやすい、あっさりお弁当

スポーツ選手向けジビエ補食
 「鹿肉ケバブ」
 片手で食べられるアスリート飯

家庭で手軽にできるジビエ料理
 「鹿肉コロッケとかきひき大根の弁当」
 茅野市の特産品を活かし、
 家庭で調理しやすいジビエ料理

からだに栄養素を届けてバランスを整える 「1/3日分の野菜・たんぱく質サラダ」の商品共同開発 ～あなたの食事 野菜とたんぱく質 足りていますか～

健康栄養学科 助手・管理栄養士 水野 尚子

野菜と(動物性・植物性)たんぱく質をコンパクトにした生野菜サラダを商品開発しました。このサラダは、成人一人当たりが必要とする栄養素のなかで、とくに不足しがちな野菜とたんぱく質に着目し、株式会社ピクルスコーポレーション長野と松本大学健康栄養学科 管理栄養士(監修)がコラボレーションし、サラダを開発したものです。これをすべて食べると、1日分の必要量の1/3の野菜と1/3のたんぱく質が摂取できます。

野菜はビタミン・ミネラル・食物繊維などの重要な供給源で健康維持・増進に不可欠な食品です。たんぱく質は他の栄養素から体内で合成できず、必ず摂取しなければな

らない必要栄養素です。とくに若い女性のダイエットによるたんぱく質不足は生活習慣病のリスクを高めます。また高齢者のフレイルの発症予防を目的とする場合も、やや多めの摂取量が必要となります。

忙しい時などに、手軽に添える一品として食卓でご活用いただけます。からだに栄養素を届けてバランスを整え、

健康維持につなげましょう。長野県内デリアの各店舗(一部店舗を除く)で販売中です。是非一度ご賞味ください。

1/3日分の野菜・たんぱく質サラダ

野菜 約127g (計算値)
 たんぱく質 約23.8g (計算値)

※厚生労働省「健康日本21」より参照
 1日当たり野菜摂取目安量: 350g
 日本人の食事摂取基準より参照
 1日当たりたんぱく質推奨量:
 65g(成人男性)・50g(成人女性)

9種類野菜が嬉しい♪
 レタス・キャベツ・人参・ブロッコリー・トマト・紫キャベツ・赤パプリカ・黄パプリカ・コーン

MATSUMOTO UNIVERSITY
 松本大学 健康栄養学科・管理栄養士監修

PICKLES
 ビックルスコーポレーション長野

大豆ミート
 植物性たんぱく質が摂れる

蒸し鶏
 たっぶり70g!!

優れた論文が多数寄せられ 「松本大学教育実践改善賞」 を4名に授与

全学教職センター長・教授 山崎 保寿



「松本大学教育実践改善賞」は、学校法人松商学園の創立120周年の記念事業として、学校教育における教育実践または地域の教育振興に実績が顕著な教員を表彰し、長野県全体の教育振興に寄与することを目的としたものです。

2022年度は、一般教員部門に18名、卒業生部門に1名、合計19名の応募がありました。校種は、小・中・高校のほか、特別支援学校など様々で、年齢も20代から60代までと幅広い層からの応募となり、

審査の結果、一般教員部門で4名の方が松本大学教育実践改善賞に輝きました。また、優れた論文の応募が多かったため、特別賞を4名に授与することとし、2月11日に本学で授賞式を行いました。

本賞を契機に、長野県教育の一層の活性化につながり、また卒業生には教員としてのさらなる力量向上を目指すための指針になれば誠に幸いです。

受賞者の皆さんからのコメントを紹介します。

〈松本大学教育実践改善賞〉 ※掲載は受付順

一般教員部門

■ 小林 綾音さん (長野市立篠ノ井西中学校教諭)

「中学校道徳科 特別支援学級における『自己を見つめること 表現すること』を支援する授業づくり」

今回の論文では、中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級での道徳科の実践についてまとめました。自己を見つめることや考えを表現することの困難さをどのように支援するか試行錯誤する中、自情障学級での道徳科について参照できる実践や研究の少なさも感じていたことから、今回この論文にまとめることにいたしました。私の拙い試行錯誤の記録ではありますが、同じ悩みを抱える方の助けになればと思います。本実践にあたり、ご指導、ご助言、ご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。今後も一層の研鑽に励んでまいります。

■ 宮島 雅子さん (塩尻市立吉田小学校養護教諭)

「児童が行う睡眠のセルフモニタリングの3年間の取り組みから一体調を崩す児童が出ることなく行事が実施できることを目指して」

昨年、今年と賞に応募し、丁寧な講評をいただけたことで、自分の実践で足りなかったことや研究のまとめ方などがわかりました。この研究を通し、改めて子どもたちが「睡眠と体調の関係」を意識出来ていないことや、帰宅後の生活が社会体育、習い事、塾などで忙しく、そのために就寝時刻が遅くなっている実態も見えてきました。

今後は睡眠のセルフモニタリングを継続するとともに、他の学年にも「睡眠」に関する学習を行い、睡眠が体や心の健康に関係していることを伝えていきたいと思っています。

■ 中澤 里佳さん (長野県松本養護学校教諭)

「評価規準の設定で授業はどう変わるか—PDRサイクルを踏まえた実践による検証—」

今回の論文は「実態把握を大切に学習課題を設定し、生徒と共有し得る評価規準を設けて評価すること」を、PDRサイクルに基づき実践検証し、その成果をまとめました。個別学習の更なる充実のために、共に知恵を絞り実践を積み上げながら研究に関わって下さった全ての先生方に感謝申し上げると共に、先生方の実践が、このように素晴らしい形で実を結んだことを大変誇らしく感じております。頂戴いたしました賞に恥じぬよう、これからも生徒の個別学習の充実が学校目標「わたしらしく わたしから せいいっぱい」に通じると胸に刻み、微力ながら尽力して参りたいと思います。

■ 望月 誠さん (長野家政学園長野女子高等学校教頭)

「地域課題を解決する実践活動を通じた地域連携—長野女子高等学校の地域連携活動を事例に—」

本研究はこれまで行ってきた地域連携活動をまとめた実践報告になります。活動の主役は高校生(本校生徒)と、高校生の活動をいつも温かく支えてくださる地域住民(長野市三輪地区)の皆さんです。ここ数年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、活動の中止が相次ぎました。もどかしさを感じながら、その不安や焦りを振り払うつもりで、この論文を書きました。改めて生徒たちの多様な活動のなかに、地域社会の未来や可能性があるように感じています。今回の受賞を励みに、今後も高校生が地域でアクションを起こせるように支援してまいりたいと思います。

〈特別賞〉 ※敬称略

一般教員部門

■ 池田 大二 (長野県寿台養護学校教諭)

「能動的作業学習についての一提案—「訓練」から「学習」へ—」

■ 瀧澤 公也 (松本市立筑摩野中学校校長)

「教育課程改善における校長のリードと教職員支援」

■ 小林 将樹 (長野県佐久平総合技術高等学校教諭)

「ESDの視点を取り入れた探究学習の実践—地域と連携した探究学習の事例—」

■ 新村 涼一 (松本市立筑摩野中学校教諭)

「学習者の興味・関心を高める文法指導—文法と実生活との関わりを提示を手立てとして—」

「大学生によるデートDV予防出前授業 In Osaka」に ピア・サポートを学ぶ学生が参加

学校教育学科 准教授 下山 恵子

2月13日と14日に、ピア・サポートを学んでいる教育学部2年生6名が、関西の大学生たちと、大阪府下にある花乃井中学校・東百舌鳥高等学校で、デートDV予防出前授業(NPO法人Peer Do主催)をしました。授業に向け学生たちは、デートDVの知識を深め、授業者としての心得を学び、互いに助け合いながら入念に準備をしました。



受講生からは、「最初は関係ないと思っていたが、とても身近な問題だとわかった」「実際に自分が相談されたら今日の授業を思い出し、友だちを助けてあげたい」「とてもわかりやすかった」といった感想が多数寄せられました。

実施校の教員からは、「好きな人との付き合い方は思春期の生徒にとって興味のあるテーマだが、教師からの話だと構えてしまい、自分たちの問題として捉えにくい。少し先輩の大学生に、しっかりとした内容で話をしてもらえ、生徒たちは自分事として捉えることができた」「普段と違い、生徒たちの真剣に話を聞く姿が見られ感心した」「授業

をする大学生の一生懸命な姿に、何かを感じ進路を決める上での良い刺激になる」など多くのお褒めの言葉をいただきました。

授業を終えた学生たちからは、「デートDVは身近で起きている問題であること、自分の周りで起きたら、『それはデートDVではないか』と伝えたいと生徒さんたちに感じてもらえるように心がけた」「緊張し自分にできるか不安だったが、とても楽しかった」「達成感を得ることができた」などの感想がありました。

以上のように、受講生の方々、実施した大学生たちが、共に成長する素晴らしい機会となりました。



矯正心理学の理解と職務研究として 松本少年刑務所を訪問

総合経営学科 准教授 矢崎 久

2月17日、総合経営学科の専門研究(矢崎ゼミ)のアウトキャンパス・スタディとして法務省松本少年刑務所を訪問しました。矢崎ゼミでは、総合経営学科の学びの4本柱のひとつである「産業と心理」をメインテーマとしつつ、ゼミに所属する学生個々に異なる心理学分野を掘りさげる研究活動をしてきました。今回は、矯正心理学の理解と職務研究の一環として、松本少年刑務所を

訪問、同所の全面協力の下、法務省専門職員(人間科学)区分として現職の法務教官、矯正心理専門職、刑務官の方々から、詳しい職務内容の説明をいただき、また、ご自身が矯正職員を志したきっかけなどのお話しをお聞きすることができました。心理学の知識を活かせる仕事を知り、見聞を広め、



学生自身の進路選択の一つに繋がることを願っております。

大学HPにアウトキャンパス・スタディの事例を掲載しています

本学では、教職員のサポートのもと、キャンパスを飛び出し、地域の企業や自治体・団体の皆さんの協力を得ながら、現場で学ぶ独自の授業形式「アウトキャンパス・スタディ」を多く取り入れています。地域社会での実体験を通して、単なる見学にとどまることなく、現場が抱える問題や課題を発見し、考え、議論し、行動し、さらに学びを深めていくことで、社会で必要とされる実践力を磨き、学びの質を高めていくことができます。今回ご紹介した内容のほかにも、松本大学のホームページでアウトキャンパス・スタディ事例をご紹介します。ぜひご覧ください。



学生組織「支援会ゆにまる」のマーケティング活動

「支援会ゆにまる」は、本学が展開している高大連携事業の「デパートサミット事業」を学生の立場からサポートするために、8年前に結成された本学学生による組織です。多くは高校時代に「デパートサミット」を経験した学生が活動を行っています。彼らの活動の中から2つの取り組みについてご紹介します。

地域づくり考房『ゆめ』 専門員 倉田 吉春

「高校生・大学生が企画・開発したバレンタインスイーツ」への参加

2月4日、5日に、アイシティ21(山形村)で、高校生と大学生がバレンタインの期間に合わせて開発した商品を販売する恒例のイベント「バレンタイン・スイーツ～バレンタインまで待てない」が開催されました。今年は3年ぶりの開催となりましたが、穂高商業高校のシュークリーム、長野商業高校の生キャラメル、松代高校のフィナンシェ、赤穂高校の



駒Chocoなど、地域の特性をブレンドした24種類のスイーツが店頭に並びました。本学からも松商短期大学の金子ゼミが、味

からデザインまで創意工夫した高級ケーキの販売を行いました。「支援会ゆにまる」の学生は、チラシや看板作り、販売方法など、高校生へのアドバイザーとしてイベントをまとめ、完売に貢献しました。



金子ゼミの学生たち

高級レトルトカレーの販売に独自の方法で挑戦!

「支援会ゆにまる」は、今年度、独自の方法でレトルトカレーの販売に挑戦しました。松本の人気カレー店が開発した高級レトルトカ



レーを井上百貨店(松本市)協力のもと、11月の恵比寿講、2月の松本建築芸術祭に合わせて販売を行いました。ひそかなブームとなっている名店カレーにスポットライトを当て、「支援会ゆにまる」オリジナルのパンフレット作成やお客様のニーズを捉えた丁寧なマーケティング活動を行うことで、いずれも完売に近い成果を上げることができました。「支援会ゆにまる」の学生たちは、この活動の成果を高校生が本学で行っている「マーケティング塾」の教材として扱うことを狙いながら、さらに効果的な販売活動を目指していきます。

観光ホスピタリティ学科

これからの地域づくりを担う「社会教育士」取得に向けてはじめての実習報告会を開催

観光ホスピタリティ学科 准教授 向井 健

観光ホスピタリティ学科では、2020年度より地域振興コースに関連づけ、新たに社会教育主事養成課程を設置し、社会教育士(社会教育主事)の養成に取り組んでいます。現在、地域の中には、様々な課題が山積していますが、それらの解決には、そこに暮らす人々が課題を「我が事」として捉えていくことが重要です。そのような地域住民の自治意識を育み、地域のもつ力を高める上で求められてくるのが、「暮らしの課題を互いに語り合い、学びあうこと」といえます。そこで地域住民の学びあいを支え、自治と協働の地域づくりを推進する役割を担っていくことが期待されているのが社会教育士なのです。

社会教育士といっても聞きなれないかもしれませんが、2020年の法改正に伴い、社会教育主事任用資格の取得者に対して、新

たに付与されることになった称号です。都道府県・市町村の教育委員会における社会教育・生涯学習部局はもちろんのこと、一般行政部局、NPOや市民活動団体、民間企業など、様々な場面での活躍が期待されています。

社会教育士の取得にあたっては「社会教育実習」の受講が必須です。本年度は、本学にとっての初めての実習生の送り出しとなりました。実習先の選定にあたっては、学生の希望なども考慮しつつ、県内市町村、児童センター、コミュニティ・ビジネスに取り組む企業などにご協力をいただき、社会教育実習を行うことができました。

2023年1月に学内で実施した「社会教育



実習報告会」では、たくさんの地域の方たちと関わりを持ちながら充実した実習に取り組んだ報告があり、学生たちの成長した姿をみることができました。社会教育の蓄積豊かな信州で学び、大きく成長した実習生たちが、住民の方たちとともに、これからの地域づくりを担っていってくれることを期待しています。

教育学部1年生を対象に、 (株)松本山雅の片山氏による特別講話を実施

1月11日の「教育学部基礎ゼミナールII」では、キャリアガイダンスの一環として、株式会社松本山雅事業推進部の片山真人氏を講師にお迎えし、ご講義いただきました。今回



の講義では、プロサッカー選手・チームを例に「夢」や「目標」への向き合い方、そのアプローチ方法等についてお話いただきました。受講生からは、貴重なお話をいただき、とても参考になったとの感想がありました。また、次年度以降の学生生活や将来に向けたヒントを得ることができたとの記述も見受けられました。貴重なお話をいただきました片山様に心より感謝申し上げます。

(学校教育学科 専任講師 海沼 亮)

台湾高雄市の高雄医科大学関係者が 視察のため来訪

松本市の交流都市である台湾の高雄市から高雄市政府代表として高雄医学大学校長ら医療関係者14名が本学へ来訪しました。一行は歓迎式のあと学生による防災演習や地



域づくり考房「ゆめ」を視察しました。高雄市には本学の協定校である義守大学もあり、両大学や両市の今後一層の交流を深めていきたいと考えています。(国際交流センター)

教員の研究成果を地域に還元 松商短大の川島教授が日銀松本支店で出前講座を実施

松商短期大学の川島均教授が、日本銀行松本支店からの依頼で、行員の健康管理能力の向上を図ることを目的に「運動」と「メンタルヘルス」をテーマに出前講座を行いました。運動とストレスの関係、記憶力に関する脳の部位、海馬(かいば)と運動の関係やそれらに効果的な運動について説明をしました。聴講された15名の皆さん、熱心に聞



き入り、最後の質疑応答では、質問も多数寄せられ健康や運動に対する関心の高さが伺えました。

本学では、地域で実施される各種講演会やセミナーへ講師の派遣を行っています。ご希望の場合は、松本大学エクステンションセンター【0263-48-7210】までご連絡ください。※高等学校関係の方は、入試広報室【0263-48-7201】まで

新たな発見や様々な業界の方と出会える貴重な機会 オンライン合同企業説明会を実施

2月20日から2月28日の延べ6日間にわたり、オンラインによる学内合同企業説明会を実施しました。県内や卒業生が活躍する企業様を中心に様々な業界の企業・団体様127社にご参画いただき、6日間で約360名の本学学生が参加しました。参加された企業・団体様からは、事業内容や業務の流れ、福利厚生や研修制度等をご説明いただき、これから本格的に始まる就職活動に向けて、学生たちは真剣な表情で聞き入っていました。また、学生スタッフとして学部4年生、短大

2年生にサポートしてもらっての運営は、本学ならではのスタイルで参加された企業・団体様からも好評でした。本学では学生一人一人の目標に応じた就職が実現できるように引き続き就職支援に取り組んでまいります。

(キャリアセンター 係長 田嶋 哲也)



教員採用選考合格者と総合経営学部・人間健康学部の学生が交流



就職を目指す学生が採用選考合格者と交流する会を、1月19日に開催しました。今年度は、常勤講師をしながら初志を貫いた卒業生も招き、1年生から4年生まで31名が参加しました。第1部では合格者が「教採対策から二次試験合格まで」と題して体験を語りました。現役生からは、さまざまなサポートを受けながら合格までの道を歩んだことが、また卒業生からは、子どもの成長に励まされる日々の喜びとやりがい、自分を支えた思いや工夫などが語られました。

続く第2部では、それぞれの合格者を囲んで、グループごとに活発な質疑応答が行われました。アンケートには、「こんな学習方法を真似してみよう、こういう考え方をしてみよう、というように学習に対するモチベーションが上がった」「教員になりたいという強い気持ちをどこまでも持ち続けていくことが大事であることに気づいた」「本当に感謝しています絶対に教員になります」等、喜びの言葉が多く記されていました。

(総経・人間就職センター 准教授 藤江 玲子)

資格速報①

健康運動指導士
認定試験

健康運動指導のエキスパートをめざして 「健康運動指導士」認定試験に合格者多数

公益財団法人健康・体力づくり事業財団が実施している第151回健康運動指導士認定試験の合格者が1月6日に発表されました。今回、スポーツ健康学科から受験した15名の学生のうち、13名が見事合格しました(本学科合格率86.6%、全国合格率74.3%)。健康運動指導士とは、同事業財団から資格が認定されるものであり、本学はその養成校となっています。この資格を取得することにより、保健医療関係者と連携して安全で効果的な運動を実施するための運動プログラムの作成及び実践指導計画の調整等を行うことができるようになります。上述の合格者の中には、資格を生かせる企業・団体から内定をいただいている学生もいます。健康運動指導のエキスパートとして、予防医学の観点から運動による健康づくり等の場面で今後の活躍が期待されます。(スポーツ健康学科 准教授 田邊 愛子)

資格速報②

社会福祉士
国家試験

全国を上回る合格率を達成! 「社会福祉士国家試験」結果報告

観光ホスピタリティ学科では、国家資格である社会福祉士の養成課程を設置しています。ウェルビーイングや地域共生社会の実現が叫ばれている昨今において、人々の暮らしを支援する社会福祉士は今後さらに求められる資格であり、人材です。

2月5日に行われた第35回社会福祉士国家試験において、本学科の学生(2023年3月卒)の合格率は66.7%と、全国合格率44.2%を大きく上回る合格率を達成しました。引き続きコロナ禍において、さまざまな制約がある状況の中にあっても、試験に向けて地道に努力を重ねてきた学生たちの頑張りを心から称えたいと思います。おめでとうございます!

本学科では、社会福祉士国家資格の取得に向けて、試験対策講座をはじめ、模擬試験の実施や学習環境の確保、個別相談などきめ細やかなサポートを行っています。引き続き、学生一人ひとりの頑張りを全力で応援します。(観光ホスピタリティ学科 准教授 今村 篤史)

新生活への期待を胸に —2022年度学位授与式—

日に日に春の陽気が感じられるようになった3月17日、2022年度学位授与式を挙行了しました。総合経営学部203名(総合経営学科110名・観光ホスピタリティ学科93名)、人間健康学部163名(健康栄養学科54名・スポーツ健康学科109名)、教育学部88名、松商短期大学部207名(商学科103名・経営情報学科104名)、大学院健康科学研究科博士前期課程2名の計663名に菅谷昭学長より学位記が授与されました。

卒業生・修了生を代表して、学友会長を務めた観光ホスピタリティ学科の小林菜々子さんが「学生生活で得た知識や経験から地域社会への貢献を目標に、自分自身で判断し、行動し、乗り越えていきます」と力強い決意を述べました。

感染防止対策を講じたうえで、卒業生・修了生が一堂に会し、執り行うことができました。



た。ご来場できなかった方には、式典の様子をインターネットでのライブ配信を行いました。(総務課長 赤羽 雄次)

クラブ活動情報

スキー部

世界ジュニア選手権ジャンプ団体で日本女子が9年ぶりに世界一!! 宮嶋林湖さんもメンバーとして奮闘

2月4日にカナダ・ウィスラーで開催されたノルディックスキージャンプの世界ジュニア選手権、団体戦においてメンバーに選出された宮嶋林湖さん(スポーツ健康学科1年)らが臨んだ日本代表女子が見

事9年ぶり3度目の優勝を飾りました。宮嶋さんは今季よりW杯メンバーにも選出され、現在世界を転戦しています。皆さまご声援をよろしくお願いたします。

陸上競技部

とちぎ国体陸上競技で6位入賞! 永井颯太さんが長野県チーム2年連続入賞に大きく貢献

昨年の10月に行われた、第77回国民体育大会の陸上競技において、成年少年男子共通4×100mリレーで、永井颯太さん(スポーツ健康学科2年)が1走を務めた長野県チームが6位に入賞しました。中学生から大人までがバトンを継げるこの種目では、1~4走の間に誰を置くかが勝負の鍵となります。永井さんは予選の動きに固さがあり、本来の伸びやかな加速力を発揮できていませんでした。決勝は冷たい秋雨の降り

しきる、難しいコンディションの中で行われました。1走はレースの良い流れを作り、次走者にバトンを渡すという、プレッシャーのかかる大役です。しかし、その様な難しい状況でも、予選の走りを改善し、持ち前の加速力で飛び出ると、しっかりと次走者にバトンを渡し、チームに勢いをつけました。そして、結果は6位入賞を果たし、長野県チームの2年連続入賞に大きく貢献しました。昨年の9月に行われた全日本インカレでは悔し



永井 颯太さん(写真左)

い思いをしましたが、シーズンの締めくくりを良い形で終わることができ、来シーズンへの良い弾みとなりました。

(陸上競技部 コーチ 村中 智彦)

硬式野球部

下記の日程で春季1部リーグ戦が開催されます。ご声援のほど、よろしくお願いいたします。

■関甲新学生野球連盟 春季1部リーグ戦の日程

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	4	8	土	松本大学 — 新潟医療福祉大学	12:30	上武大学野球場
第2節	4	9	日	平成国際大学 — 松本大学	12:00	平成国際大学野球場
第3節	4	15	土	白鷲大学 — 松本大学	10:00	白鷲大学野球場
第4節	4	16	日	松本大学 — 新潟大学	10:00	白鷲大学野球場
第5節	4	22	土	関東学園大学 — 松本大学	10:00	上武大学野球場
第6節	4	23	日	松本大学 — 上武大学	10:00	上武大学野球場
第7節	5	13	土	山梨学院大学 — 松本大学	12:00	山梨学院大学川田球場
第8節	5	14	日	松本大学 — 常磐大学	12:00	松本大学野球場
第9節	5	20	土	松本大学 — 作新学院大学	10:00	平成国際大学野球場

※日程・会場は、都合により変更となる場合があります。

男子サッカー部

下記の日程で前期1部リーグ戦が開催されます。ご声援のほど、よろしくお願いいたします。

■北信越大学サッカーリーグ戦 前期1部リーグ戦の日程

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	4	15	土	松本大学 — 金沢学院大学	10:00	松本大学
第2節	4	29	土	松本大学 — 金沢星稜大学	10:00	松本大学
第3節	5	13	土	新潟産業大学 — 松本大学	10:00	刈羽びあパーク
第4節	5	27	土	新潟大学 — 松本大学	10:00	グランセーナ
第5節	7	8	土	松本大学 — 北陸大学	10:00	松本大学
第6節	7	15	土	松本大学 — 新潟医療福祉大学	10:00	松本大学
第7節	7	22	土	新潟経営大学 — 松本大学	10:30	経大フィールド

※日程・会場が変更になる場合があります。

退職のあいさつ

松本大学の真価が問われるこれから

副学長・スポーツ健康学科 教授 等々力 賢治



教職員の皆さん、長きに渡り大変お世話になりました。2007年の人間健康学部の新設以来、学科長、学部長、副学長という大役を拝命し、精一杯務めてきたつもりです。その評価はお任せしますが、地方の小規模大学の直面する諸課題に目配りを強いられ頭を悩ませる一方、多くの皆さんに力強く支えていただいた16年間でした。

18歳人口の減少が声高に言われていることに加え、今年度入試から定員管理が収容定員に変更されたこと、コロナ禍が下火になり「大都市志向」が受験生の間に広がったことなど、その影響を直接被りそうな本学の立ち位置の厳しさが一層鮮明になっています。

そうした状況を打開するには、迅速に手を打たねばなりません。アンテナを高くして、松本大学らしい改革・変革策を構築してください。その進捗と内容如何が、本学の真価を問うことになるでしょう。皆さんの健闘を期待いたします。頑張ってください。

あらためて、本当にお世話になりました。

充実した最後の大学生活

観光ホスピタリティ学科 教授 松田 武雄



私はこれまで6つの大学を異動し、本学で最後の大学生活を送りました。信州は私の専門分野では歴史的原点のような地域で、なかでも松本は私にとって研究の源泉となってきた地域です。松本大学は地域に根ざした教育研究を掲げており、私にとって最後の大学生活を送るのに最適な環境でした。松本大学で充実した大学生活を送ることができ、教職員の皆様方に感謝しております。ありがとうございました。

夢を現実にするチャレンジを！

スポーツ健康学科 教授 小松 茂美



長引くコロナ禍の生活で、若者が夢や希望を持ちづらいつい感のある昨今、「ロケットの父」と呼ばれるロバート・ハッチンズ・ゴダードの「昨日の夢は、今日の希望であり、明日の現実である。」という言葉が、心に響きます。夢や希望への挑戦は、皆さんの特権だと思います。これからの皆さんの活躍を心から祈念するとともに、充実した松本大学での生活を支えてくれた皆さんに、心から感謝申し上げます。ありがとうございました、そして、お世話になりました。

教職センターと教員養成の成果

全学教職センター長・スポーツ健康学科 教授 山崎 保寿



教員養成の成果は、まず教採試験の合格状況、次に採用後の職能成長によって推し量ることができる。前者については、他大学の教員に、総経・人間学部の教職課程履修者数、免許種、現役・過年度生の合格者数を伝えると、一様に好評価である。後者については、卒業単位に加えて教員免許を取得した学生であるだけに、卒業後も学校で意欲的に活躍している。多くの教職員の皆様のご協力により教職センターを運営できたと感謝しています。

松本大学の未来に幸多かれと祈る

教育学部教職センター長・学校教育学科 教授 征矢野 達彦



義務教育の学校を定年退職してから、縁があって松本大学に来て、人間健康学部で4年、教育学部で6年お世話になりました。2年目に教育学部新設の話が出て、準備委員会、設置委員会と進み、教育学部棟の設計、教室配置等。文科省の設置認可が出てからは、校舎新築、備品発注、教員選考と、通常の授業が進む中で並行しての作業が進んで行きました。そして、待望の一期生の入学、新しい歴史が始まることへの期待感で、この時が一番嬉しかったです。もう三期生の卒業、今後の教育学部さらに松本大学の健闘を祈っています。

城春草木深

松商短期大学部商学科 教授 伊東 直登



少子化に備えて教員を減らし、司書課程の専任教員を無くす、というリストラ策に資する退職となりました。

攻めの施策無くして発展の活路無し。地方自治体で取り組んできた、幾つものプロジェクトに買った私の姿勢です。魅力を強化し競争力を高める、そんな攻めの戦略が立てられる大学となり、発展されますことを、地域の一員として切に願っております。短い間でしたが、お世話になった皆様、ありがとうございました。

感謝の思い

松商短期大学部経営情報学科 教授 中村 純子



松本大学松商短期大学部には17年間お世話になりました。本当に先生方、職員の皆様、そして学生に恵まれた教員生活でした。特に信頼する学生らとの出会いが私の教員としての自覚を促してくれ、自分なりに充実した最後を迎えることができました。「最終の講義に去らぬ卒業生」—これは、私が最後の授業を終えると、名残惜しそうにしてくれた学生の様子を詠んだものです。幸せな教員生活でした。ありがとうございました。

学生の成長に支えられた日々

教職センター・スポーツ健康学科 准教授 藤江 玲子



この春、当センターの教職課程で学んだ数十名の学生が、各地の学校へ旅立っていきます。当センターでは、中学・高校の各教科、養護教諭、栄養教諭と多様な資格を目指す学生が交流しながら学んでいます。子どもにとっての最善を願い、仲間とともに真摯に学ぶ学生たちの姿とその成長は、大きな支えであり励みでした。ありがとうございました。長野県を離れますが、松本大学と卒業生の皆様のご発展を、心からお祈りしております。

鮭ではなくリンパ球だった。

健康栄養学科 専任講師 沖嶋 直子



松本生まれで滋賀、徳島、東京を経て松本で後進の育成に携わる自分を、生まれた川に戻る鮭みたいだと思っていた。しかし、4月からは家庭科教員養成という未経験の挑戦に向かう。リンパ球がリンパ組織を出て全身を巡ってから同じ場所に戻るように、私も一旦松本を離れるが、ゆくゆくは実家のある松本に戻る予定である。アレルギー研究をしてきた私は、リンパ球の中でもIgEを分泌するレアキャラなB細胞と言ったところか。

退職にあたってのお礼

健康栄養学科 助手 小木 ひかる



2年間という短い期間でしたが、大変お世話になりました。大学院を修了して、初めての職場が松本大学で、社会人として右も左もわからない私を温かく支えてくださり、本当にありがとうございました。今後は皆さまの目に留まることのできるような研究者になるべく、研究に励みたいと思います。最後になりますが、今後の松本大学の発展を心よりお祈り申し上げます。



OPEN CAMPUS

MATSUMOTO UNIVERSITY &
MATSUSHO JUNIOR COLLEGE
2023

松商短大のみ開催

4.16 日

午前の部のみ

5.21 日

午前の部のみ

6.11 日

午前の部のみ

6.25 日

午前の部のみ

7.15 土

7.30 日

8.20 日

9.9 土

午前の部のみ

9.23 土

午前の部のみ

午前
の部

10:00~12:30

受付9:30から

午後
の部

13:00~15:30

受付12:30から

予約はこちらから



事前予約制 & 当日の詳細はWebで!



! 途中退出自由

CASE /01



学部・学科説明
保護者向け大学説明

学部・学科の特徴やカリ
キュラムの説明、保護者対
象に進学や大学について
ご説明します。

CASE /02



ミニ講義

授業体験として、毎回異
なるテーマで短時間の講義
を実施します。

CASE /03



入試相談

各入試の説明から入試準
備について、また、学生生
活や経済支援制度などにつ
いてご相談ください。

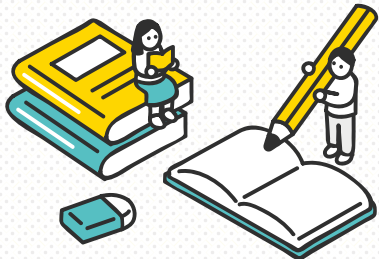
CASE /04



総合型選抜説明

入試の流れや面接のポイ
ントなどをご説明します。
総合型選抜を受験される
方は受講が必須です。

大学の雰囲気や学びの環境、学生生活などが体験できるプログラムを用意して、お待ちしております!



シャトルバス
無料往復を運行!

予約
不要

松本駅 ↔ 松本大学

8:30~16:00まで30分間隔で運行

お車でお越しの方は

無料

学生駐車場をご利用下さい

開催前に必ずホームページをご確認ください。

編集後記

コロナ禍で3回目の卒業式を迎えました。卒業生・修了生の皆様、おめでとうございます。みなさんの学年は授業がオンラインのみから、一部対面・全面対面へと変わっていきました。部活動・課外活動や大学祭も様々なレベルで制限がかかりましたね。しかし、正解がない中でも対応を模索しながら前向きに精一杯できることに取り組んだ学生生活だったと思います。この経験は社会で必ず生かすことができるかと確信しています。5月には、今回のコロナウイルス感染症が5類感染症扱いに移行するため、社会も新しいステージを迎えます。そこでのみなさんのご活躍を期待しています。Now, you can!

(記・入試広報委員長 山田 一哉)



松本大学

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1
TEL 0263-48-7200 FAX 0263-48-7290
www.matsumoto-u.ac.jp